

かみ こひつじ
神の子羊

ひつじ
羊

ひつじ
羊は、日本では、動物園とかで見れますね。羊に
ひつじ
ついて、思いついたことを、つぎの空白に書いてくだ
さい。

ひつじ
羊は聖書の中によくでてきます。イスラエルの民
は、もともと、羊などを飼って生活する、遊牧民で
した。

オーストラリアには羊がたくさんいて、その羊の
毛がかりとられ、日本にもってきて、洋服の材料と
して使われています。私たちにとっても、身近な動物
なのでですね。

せんれいしや
洗礼者ヨハネはイエスさまを

かみ こひつじ よ
「神の子羊」と呼ぶ

ヨハネによる福音書が書かれたのは、イエスさまが
十字架にかけられ殺されてから、六十年か七十年ぐ

らいたったころでした。そのころ、イエスさまはだれ
なのかという議論がさんかにおこなわれていました。
そこで、ヨハネによる福音書を書いた記者は、その
当時の人びとに、イエスさまが神の子であることをう
ったえようとなりました。

ヨハネによる福音書を読んでみるとわかりますが、
イエスさまが、父なる神さまから遣わされたものであ
り、イエスさまを見る人は、父なる神さまを見ること
ができると説明しています。

だから、「神の子羊」という呼び名も、イエスさま
が神さまから遣わされたものであり、子羊の血によ

って、イスラエルの民が救われたように、神の子羊で
あるイエスさまの血が流されることによつて、みんな
が救われ、神さまの恵みを受けることができることを
示しています。

